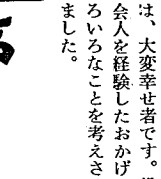
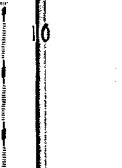
育て若い声

私が感じた選挙



笠井千恵子（覚路津）

生まれて初めての選挙。その選挙で投票に立ち会えた私は、大変幸せ者です。投票立会人を経験したおかげで、いろいろなことを考えさせられました。



高橋克子（草水町二）

二十歳になったという事を実感として味わえるものに、選挙権をもつという事があげられます。社会のルールによる選挙権をもち、私たちの代表を選ぶということで、これからの生活に大いに影響するとなれば、立候補者選択も慎重になるというものです。そうして選ばない限り、自分のせっかくの一票は、血のかよわない無意味な紙きれとなるのではないでしょうか。

こんなことで私は、初めての選挙であり、緊張もしていたし、投票所は神聖な場であるように感じていたのです。それがかえって、行かなければならないのに、なんだか行きにくいという気持ちにさせていたのだと思うのですが、そんな時立会人の話があり、内側から選挙を見る事ができて、私はたいへんラッキーだったと思っています。

人々の一票一票を真剣に投票する姿を見ていると、本当に政治は私たちのための政治でなければならないんだな、私たちが私たちの代表を選ぶんだな、とあらためて考えさせられました。

十二時間という長い間、座り続けの姿勢はつらいけれど、次から次へと来る人を見ていると、特にご老人が手をひかれながらも投票していく姿などは、あたり前の事なのだろうけど、ひどく胸を打つし疲れも忘れてしまいます。

立会人を、選挙権をもったばかりの人にやらせるという事にはいろいろな理由があると思いますが、初めて選挙するという人が〝選挙とはどういうものなのか〟を知るためにもそれは効果的であると思います。なおつけ加えるなら、今年のように三回も選挙が重なった場合、多くの人に選挙というものを知ってもらうために、同じ人を指名するのではなく、毎回変えてみてはどうでしょうか。

とにかく立会人をさせていただき、疲れた以上に私は私なりに考えるものがあったし良い社会勉強になったと思っています。

その中で、私が特に強く感じた事は、人間の社会では何事においても有りうるものですが、選挙にしても、昔からの風習のようなものに基準を置いているように思えました。おとしよりのかたは、特にその傾向が強いように思えます。全部が全部そうとは言えませんが、昔から持ち続けている考えかたに執着してしまっているようで、ちょっと悲しくなりました。

また、おとしよりのかたで、最初から紙に書いて来る人もいましたが、その事だけを取り上げたなら、煩わしくなくて大変良い事なのかも知れません。しかし、果たしてそれがその人自らの考えかたなのかと思うと、とても不安になります。小娘のくせに、と言われるかも知れませんが、一人ひとりが選挙権をもっと有効に使って欲しいと思います。

知事選の時、天候が悪かったためもありますが、投票率がすごくか悪ったようです。

今年はたくさん選挙がありました。また来年には、統一地方選挙もひかえていません。

今号は、これらの選挙について、立会人としての立場からみた感想と意見を、若い二人のかたから寄せてもらいました。

はじめての選挙

雨が降ったら家で寝ていよう、晴れた時だけ行けばいいさ、というような曖昧な考えかたでは、決して社会は住みよくならないでしょう。

これは婦人だけに言える事ではありませんが、普段平穏であれば、選挙なんて面倒な事は男性に任せっ放し。そのくせ、世の中が住みにくくなれば責任をなすりつける。あげくの果ては、やれ公害だ、物価だとワイワイギャーギャー騒ぎ立てるようでは、余りにも身勝手すぎると言うもの。自分たちの生活を守ってくれる人を選ぶのですから、もっと真剣に考えなければ……私たちが政治に参加する唯一の手段、もう一度見直して見る必要があるのではないでしょうか。

〝幸福への第一歩は正しい選挙から〟

内側から見た選挙

何か一つやろう体力づくり

今月は「体力づくり運動強調月間」です

古今川柳漫歩

(30)

江戸川柳には、俳句とは異なった美的様相が見られる。これ等の中で、最も著しいものは、五七五の短詩形の中に表現された辛辣・痛快・尖鋭・奇警・軽妙酒脱などであろう。

江戸川柳子の眼は社会の欠陥や人間の弱点をねらうことを得意とした。すなわち、物の「穴」を穿とうとする傾向が強かった。だが、その欠陥や弱点を是正しようとするような熱意のある諷刺的な句は極めて少なく、むしろ対象を客観的に見すえての皮肉や冷笑的な句が多い。

特に当時の庶民の立場から、日頃見聞している権威的な者の裏面の真の姿を容赦なくえぐって、之を示そうとした。このような句には辛辣さが遺憾なく表現されている。

江戸川柳には、武士階級のことを皮肉っている句が多く、武士の中でも、役人を詠んだ句に特に辛辣なものが見られ、いわゆる「握らせる、呑ませる、抱かせる」の三法を詠んだ代表句としては、次のような句がある。

「握らせる」、すなわち、袖の下から賄賂を贈る句として有名なのは、

辛辣（武士の場合）

阿達義雄

●役人の子はにぎにぎをよく覚え　（一6）

親が、いつも袖の下から金を握らされているので、その子も役人の子だけあって、「にぎにぎ」をよく覚えているというのであり、右の「にぎにぎ」は「あたまてんてん」などと同じように、大人が幼児に戯れにやらせる芸である。

また、幕府や大名屋敷に出入りを許されていた御用商人が、幕府や大名に仕えていた役人を料亭又は妓楼の二階などへ同行して遊興させて懐柔しょうとすることを、

●御出入とかくはしごをのぼらせる　（明和三義）

と詠んでいる。「御出入」は御用商入である。

●役人の骨っぽいのは猪牙に乗せ　（二13）

猪牙は、吉原目ざして山谷堀を辷るように走る快速船であるから、この句は袖の下の利かない堅い役人を吉原へ伴なって軟化させようとすることを詠んだものであり、以上の三句は、いずれも間接的な表現をもって、賄賂横行の時代相を衝いたものである。

このような武士は、金に困った時には、蔵宿に行って金を借りたりしたものであった。蔵宿というのは知行扶持米の受取りを武士に代って行なっていた商舗であったが、後には武士の金融機関のようになったものである。

次の句を見ると、幕臣も金を借りるために、蔵宿において散々嘲弄的に扱われていたことが知られよう。

●蔵宿の嫁は心で笑止がり　（三4）

日頃の体面も捨てゝ、言葉を尽くして金を借りようとしている武士の姿を見て、蔵宿の嫁までが、心の中でおかしいやら気の毒やら、その哀れな姿を眺めていたというのである。

●人は武士なぜ蔵宿にあてがわれ　（一四25）

「花は桜木、人は武士」などと威張っていた、その武士が、蔵宿で、金を借りようとしても、いい加減に当てがわれている。いやはや、お気の毒千万というのであろう。

これらの句は、単なる滑稽な句ではなく、間接的ではあるが、中に針のような鋭さをもった辛辣な句と言ってよいであろう。

（新潟大学名誉教授）

燃えるゴミと燃えないゴミ キチンと区別して決められた日に

燃えないゴミを集める日は地区ごと「毎月二回」と決められています。ですが近ごろでは、この決められた日以外にも、燃えるゴミ袋の中に缶づめやジュース、スプレーといった空き缶を入れたり、空ビンなども入れて出されるかたが多く、処理センターではとっても困っています。

これらの燃えないゴミをわからないで、いっしょに焼却炉の中に入れたりすると、焼却炉をいためるばかりか、燃料も大量に使い、能率もガタおちです。

「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」はキチンと区別して、指定された収集日に出されるようぜひご協力ください。

〔ゴミ処理に守りたいこと〕

○…ゴミは、ポリ袋に入れて口をとじて…。

○…台所からのゴミは、水分をよく切って…。

○…長いものは、一メートルほどに切ってたばねて。

○…大きなゴミは、あらかじめ前処理（切断、圧縮など）をしてから出そう。

○…ダンボール箱などはゴミ容器の代用にしないで。

パックタイマーつき
デラックス エレックさん
ナショナルショップ完全アフターサービス
株 井浦電気商会
本店 新津市町2丁目 TEL(代表)22393
新川店 新川南4山148 TEL(新)40522

神前結婚式場 〝春祥殿〟
秋の御婚礼申込みはお早目に
株式会社 春雨
新津市本町一（駅前）
☎(2)1600(代)

婚礼出張撮影　免許・証明写真撮影
集合記念写真撮影　商業写真撮影
スタジオ写真撮影　大型写真撮影引伸し
スタジオサカツメ
新津市本町4丁目5―6　TEL(代)(2)0045

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6-12　TEL(2)1731